

# 商店街活性化事業計画の概要

地域

栃木県宇都宮市

認定日

平成24年4月13日

## 事業名：地域住民との協働による商店街にぎわい拠点づくり事業

事業者名：宇都宮オリオン通り商店街振興組合

事業実施期間 平成24年4月～平成27年3月

### ■商店街活性化事業の概要

- ・「地域居住者に支持され満足度が高い商業・文化空間を再構築する。」ことを活性化の基本方針として、商店街の商業力の向上を図るとともに地域資源を活用し集客力を向上する。
- ・地元芸術大学や地域住民と連携して、作品展示等の発表の場を兼ねた交流・休憩施設「ギャラリー・カフェ」を設置し、この施設を拠点とし、デジタルまんがや地元の歴史的資源を発信する新規イベントを実施し、商店街各店舗への回遊を促進する。

### ■商店街活性化事業の内容

#### ◆地域住民ニーズ

- ・来街者実態調査では、ファストフードやカフェが求められており、「空き店舗をなくして欲しい」やイベントを増やし情報を提供して欲しい」との要望があった。
- ・近隣居住者アンケート調査では、「センスの良い店や専門性の高い店」、さらに「文化施設や休憩施設」への高質化、設置へのニーズ等が高いことが明らかとなった。
- ・カルチャー教室参加者へのアンケートや実証事業では、中心市街地に作品等の発表の場が求められ、来街頻度が高まることも明らかとなった。

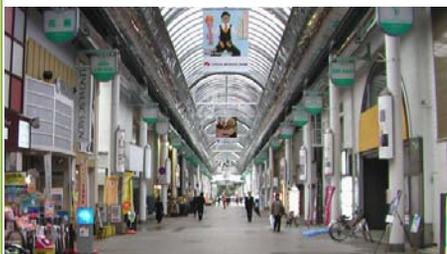
#### ◆実施計画の主な内容

- ・空き店舗を活用して、地元大学や市民の発表の場を提供するとともに交流・休憩の場としてギャラリー・カフェを開設する。またこの施設を拠点とし、デジタルまんが甲子園関連イベントや地元の歴史的資源である「山車・火炎太鼓」復元のための新規イベントを実施することで、商店街の役割を再認識するとともに、集客と回遊を促進する。
- ・商店街はもとより、中心市街地でのイベントや社会的行事に関する情報提供や、商店街逸品情報や各店の商品情報を発信し販売促進を強化するため、商店街HPを改編し、今まで来街することがなかった地域住民等への情報提供を促進する。

### ■商店街活性化事業計画の目標

- ・ギャラリー・カフェへの年間来場者11,580人、新規イベントへの延べ参加者1,900人、平成27年度の歩行者通行量調査では、同店舗前通行量を平成24年度比3.9%増を目指す。
- ・商店街販売額については、平成27年度には平成21年度比4%の増を目指す。

【商店街の様子】



【ギャラリー・カフェ実験の様子】



【オリオンバザールの様子】

